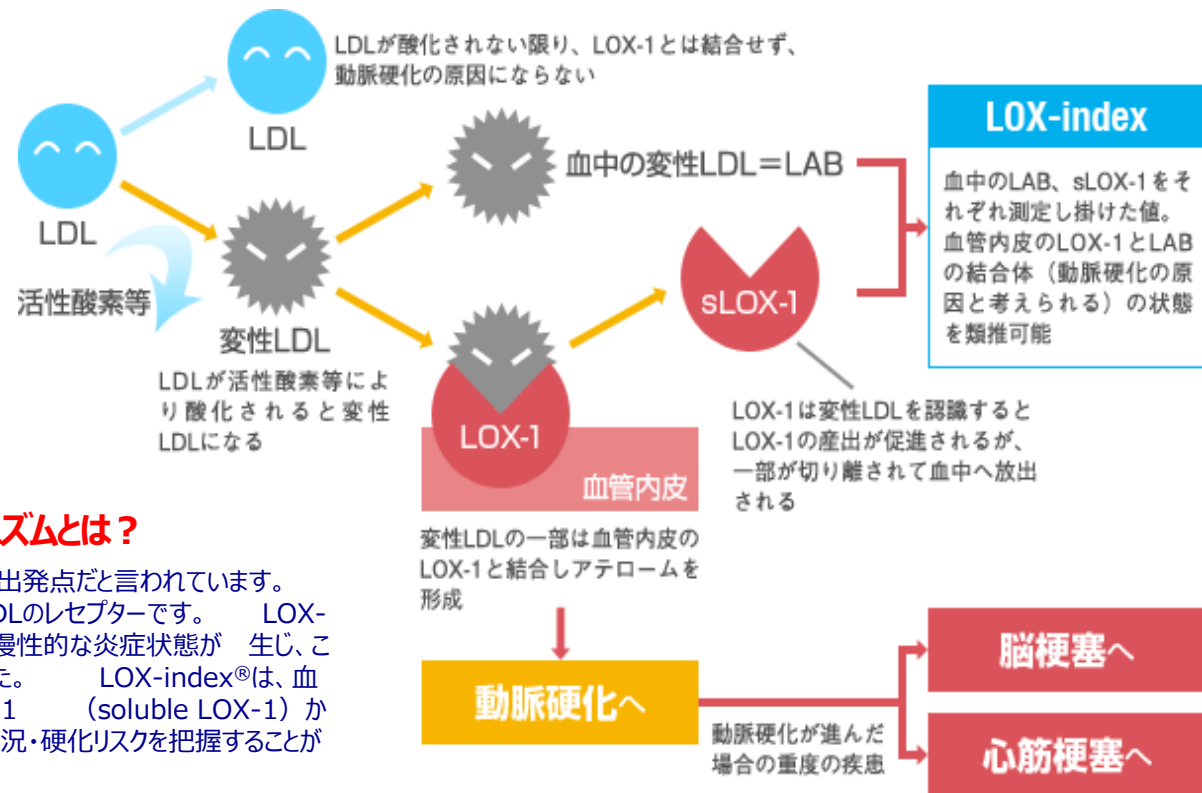


LOX-INDEXとは？

LOX-index®は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。日本国内で行われた、約2,500名を約11年追跡した研究成果がベースになっております。

sLOX-1（可溶性LOX-1：血中に放出されたLOX-1）と**LAB**（LOX-1 ligand containing ApoB）から得られる解析値が、今後10年以内の脳梗塞・心筋梗塞発症率に大きく関与する事がわかりました。

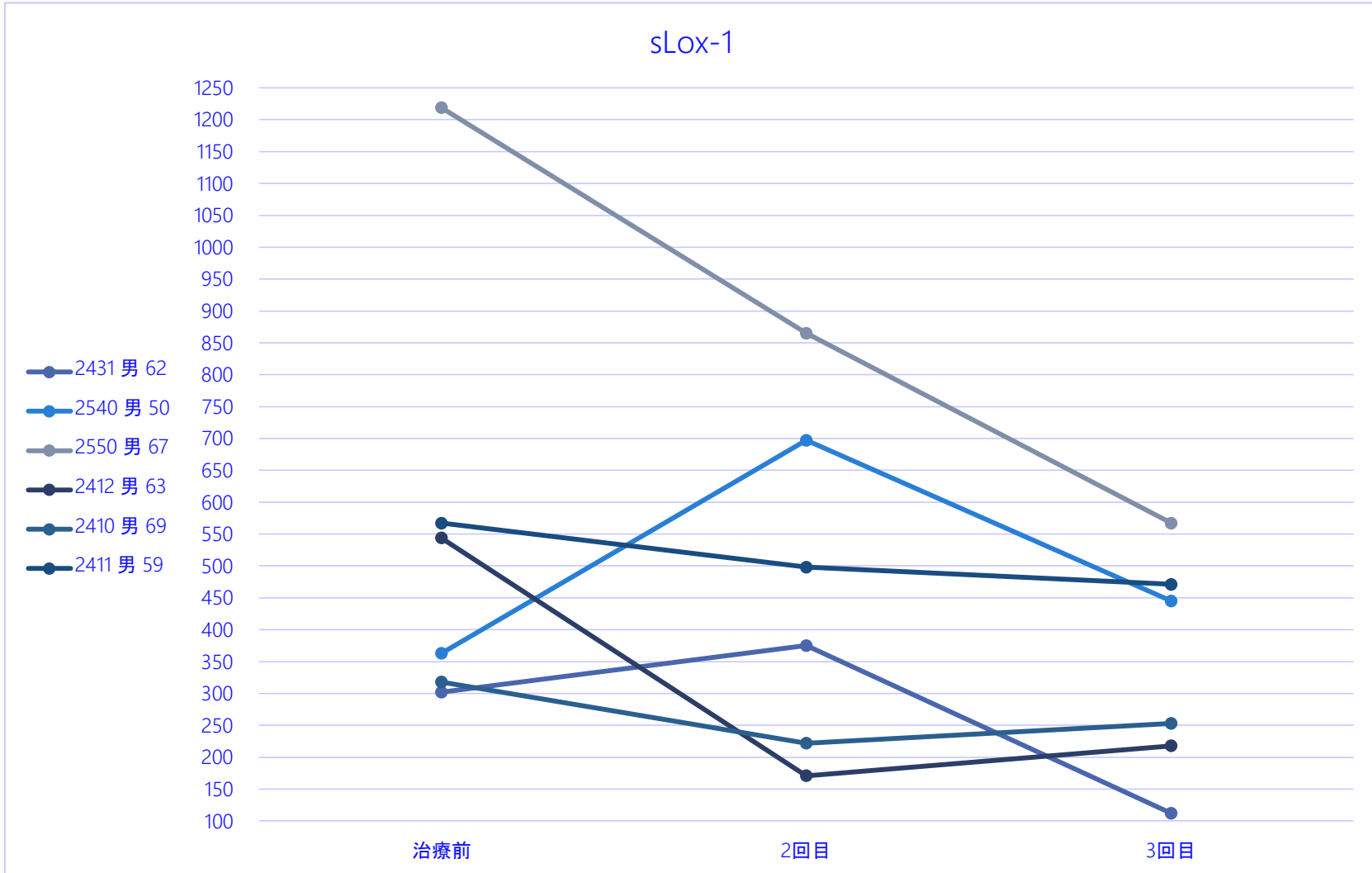
脳梗塞発症率で約3倍、心血管疾患発症率で約2倍となり、これら2つの疾患の発症リスク評価検査としては、**唯一の検査**です。



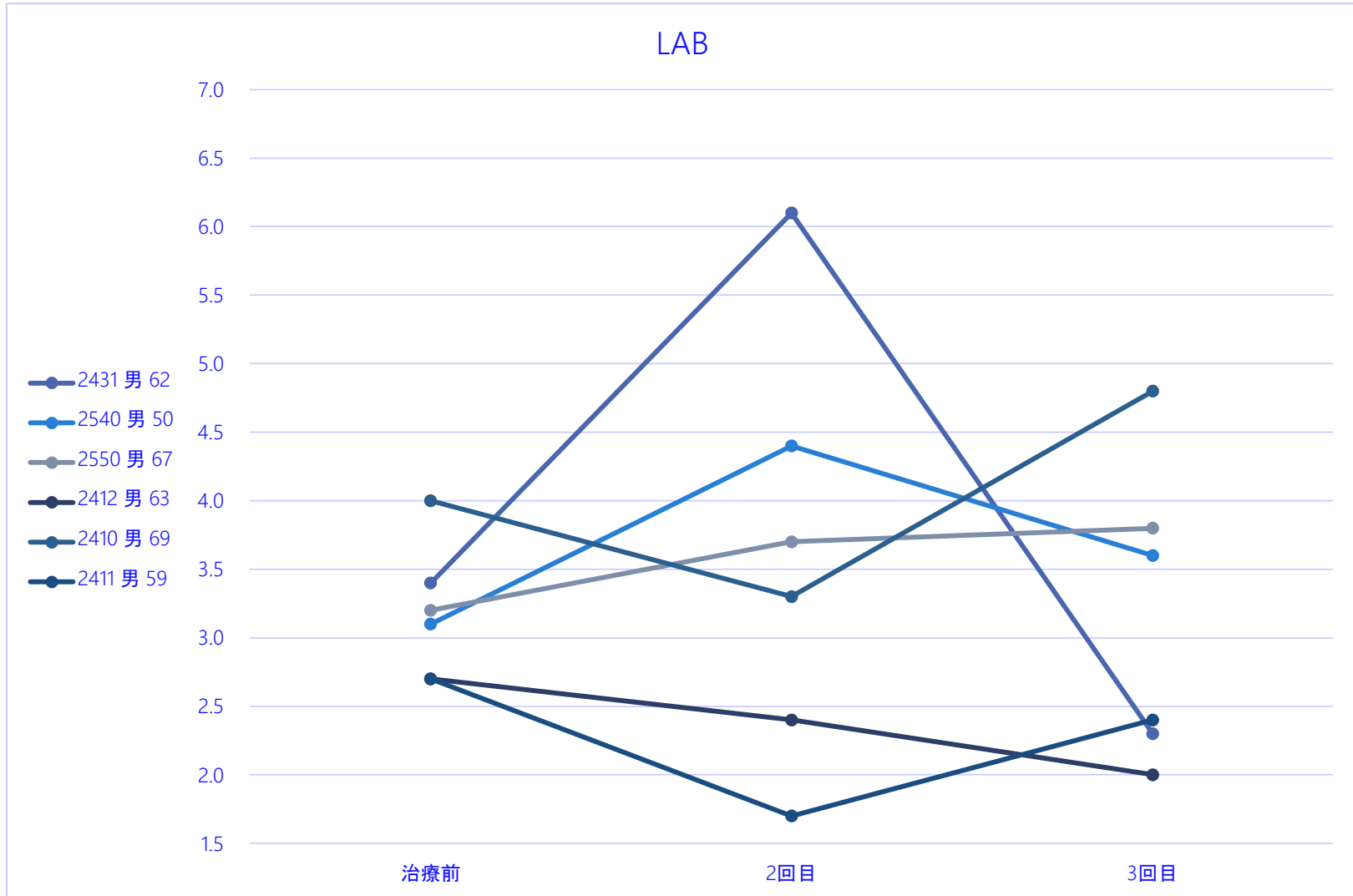
LOX-index®と動脈硬化のメカニズムとは？

動脈硬化は、血管内皮細胞の機能障害が出发点と言われてます。LOX-1は血管内皮細胞に存在する変性LDLのレセプターです。LOX-1と変性LDLが結合すると血管内皮細胞に慢性的な炎症状態が生じ、これが動脈硬化の原因であることがわかりました。LOX-index®は、血液中的変性LDLと血中に放出されるsLOX-1（soluble LOX-1）から測定し算出する指標で、血管壁の硬化状況・硬化リスクを把握することが可能です。

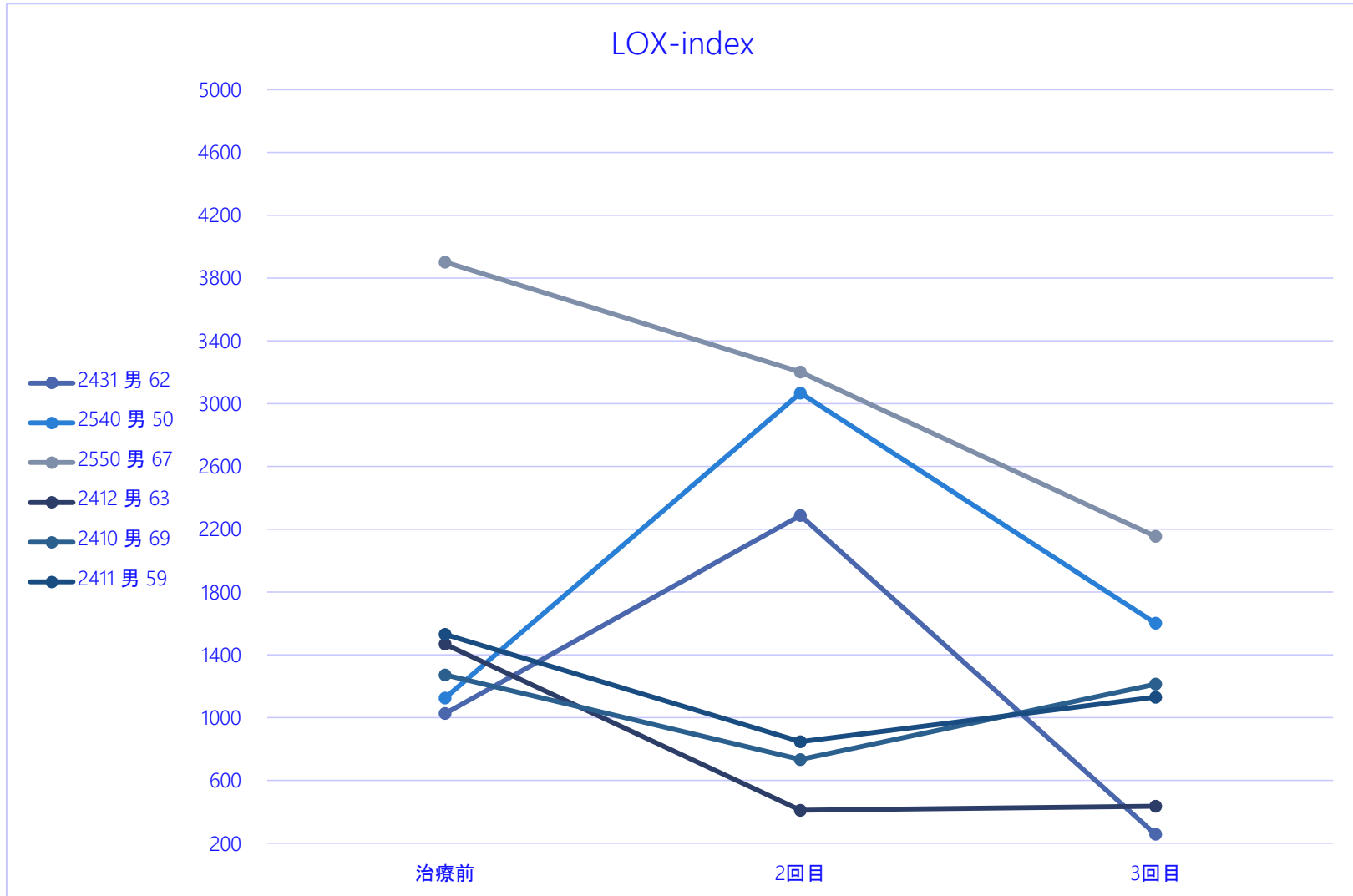
SGF-DPの内皮細胞マーカーに対する効果



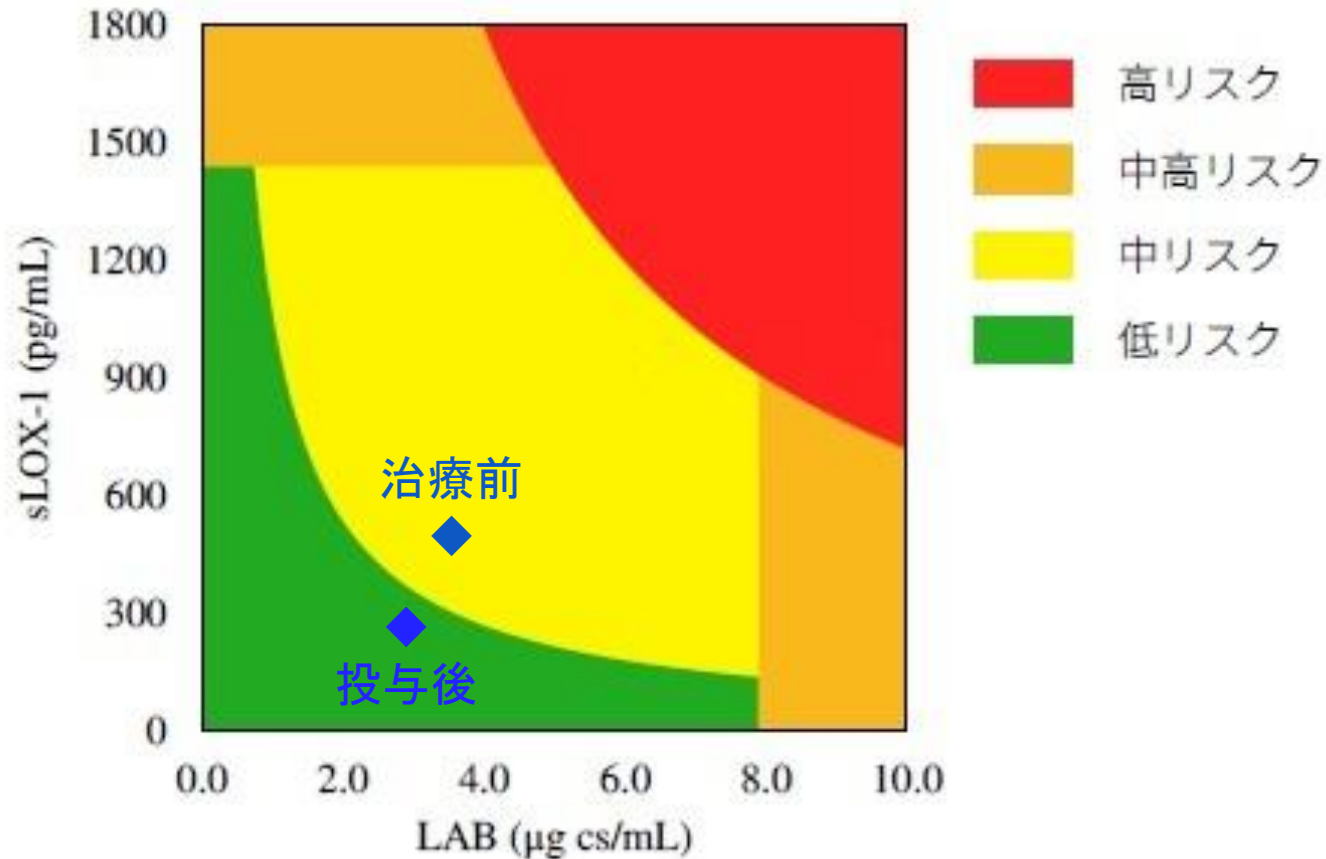
SGF-DPの内皮細胞マーカーに対する効果



SGF-DPの内皮細胞マーカーに対する効果



総合評価グラフ



脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクが「中」から「低」へ改善